

SANKYOと宮山技術研究所が 釘整備ロボットを共同開発

パチンコメーカーSANKYOと、
釘打ち機メーカーの宮山技術研究所は、
「全自動釘整備システム」を共同開発。
5月19日、日工組加盟メーカーへの販売を開始した。製造、販売は、宮山技術研究所が担当する。

今回両社で共同開発した「全自動釘整備システム」は、釘打ち機でアクリル板やベニヤ板に釘を打った後、画像検査で盤面の釘をチェックして、釘を規定の数値通りにロボットが自動で整備するシステム。現在SANKYO三和工場では、既に釘整備ロボットが12台稼働し、正確無比な釘整備を行っている。

これまで、パチンコメーカーの工場では釘打ち機で釘を打った後、人の目や検査機でデータ通りに釘が打たれて



SANKYOと宮山技術研究所が共同開発した
「全自動釘整備システム」。



SANKYO三和工場では12台の「釘整備ロボット」が稼働している。

いるかをチェックして、データとズレがある部分は人の手で整備をしていた。しかし「全自動釘整備システム」を導入することで、長時間労働の疲労等から起こる人の手による釘整備のバラツキを防止し、全て自動でスピーディーかつ正確な釘整備が可能になる為、釘整備精度向上によりゲージ性能を100%発揮でき、申請時と出荷時が同じ釘整備にできる。ホールでは釘による台毎の個体差が無くなるため、安定したデータと稼働が見込め、ユーザーも安心して遊技できる。

「全自動釘整備システム」はゲージ整備の夢を実現したものである。